

第7章 基盤強化の目標と実現方策

1 基盤強化の目標

安全で安心な水を安定的に供給し続けるためには、現行の水道サービスの水準を維持することが求められます。しかし、水需要の減少、経営状況の悪化、水道施設の老朽化、災害への対応、事業運営体制の維持など多くの課題に対し、各水道事業者が単独で対応するには限界があります。

そこで、「山形県水道ビジョン」に掲げる本県の目指すべき方向性に基づき、庄内圏域における水道事業の経営基盤を強化するため、広域連携を推進します。

基盤強化のための広域連携の推進にあたっては、以下の3つを目標とします。

目標1 健全経営の維持

人口減少等に伴う水需要の減少が続いており、今後も減少していく見通しとなっています。水需要の減少は収益の減少に直結するため、水道事業の経営が一段と厳しくなっていくことが予想されます。将来にわたり安全で安心な水を安定的に供給していくために、広域連携によるスケールメリットを活かした効率的な事業運営を行うとともに、適切な水道料金を設定し、健全な事業経営を維持していく必要があります。

目標2 施設の強靱化

水道施設・設備の老朽化の進行により、水道管の破損による漏水を始め、安定した水道水の供給へのリスクが高くなっているため、適切な設備投資を行い水道施設の更新を進めることが重要です。また、近年増加している自然災害に備え、施設の耐震化を進めるとともに、バックアップ機能の強化等により、災害等有事の際の水道供給能力の向上を進める必要があります。

目標3 事業運営体制の確保

人口減少のフェーズに入り、事業運営に必要な人材の確保が難しくなっていくことを踏まえ、計画的な人材の確保と育成及び技術の承継、更には広域的な視点による人材の共用化や民間事業者の技術力・経営ノウハウの活用も含め、事業運営体制の確保に取り組む必要があります。

2 実現方策

庄内圏域における基盤強化のための実現方策は、以下のとおりとします。

(1) 鶴岡市水道事業・酒田市水道事業・庄内町水道事業の統合

鶴岡市水道事業、酒田市水道事業、庄内町水道事業（以下「2市1町水道事業」という。）を統合し、鶴岡市、酒田市、三川町、庄内町に水道水を供給する企業団（以下「企業団」という。）を設立します。

(2) 庄内広域水道用水供給事業と企業団の統合

県企業局から庄内広域水道用水供給事業を引き継ぎ、朝日浄水場及び平田浄水場を企業団で運営します。

(3) 遊佐町水道事業と企業団の連携

遊佐町水道事業と企業団との連携について検討を続け、必要に応じて連携を実施していきます。

表 7 【参考】広域連携の類型

広域連携の形態		内容
事業統合		・経営主体も事業も一つに統合された形態 (水道法の事業認可、組織、料金体系、管理が一体化されている)
経営の一体化		・経営主体は同一だが、水道法の認可上、事業は別形態 (組織、管理が一体化されている。事業認可及び料金体系は異なる)
業務の共同化	管理の一体化	・維持管理の共同実施・共同委託（水質検査、施設管理等） ・総務系事務の共同実施・共同委託
	施設の共同化	・水道施設の共同設置・共用（取水場、浄水場、水質試験センターなど） ・緊急時連絡管の接続
その他		・災害時の相互応援体制の整備、資材の共同備蓄等

【出典】国土交通省ホームページ